

小豆島国際ホテル



ベイリゾートホテル小豆島
BAY RESORT HOTEL
SHODOSHIMA

受付
18.1.24
キャリアセンター



LOVE & PEACE ～あなたに夢はあるか？～

あなたにとって幸せとは何ですか？ 豊かさとは何ですか？

世の中が目まぐるしいスピードで変わり、人の価値観は多様化しています。
だからこそ、100人いれば100通りの価値観を大切にしたいと考えています。

私たちには大きな夢があります。
そのために、乗り越えなければならない壁がたくさんあります。

1人でも多くいろいろな人にかかわってもらいたい。
大きな志と自分の夢を持った人に仲間になってもらいたい。

もし、豊かな土地で暮らしながら働く事があなたの幸せなら、
私たちと仲間になりませんか？一緒に挑戦しませんか？
いつでもお待ちしております。



コーポレートメッセージ

私たちは、瀬戸内海に浮かぶ小豆島のリゾートホテルグループです。
小豆島はもちろん、瀬戸内海の島々は、どこもとても素晴らしく、キラキラ光るものがあります。

私たちは、瀬戸内の繁栄なくして小豆島の繁栄はないと考えており、
瀬戸内小豆島の未来に挑戦しています。

瀬戸内最高峰のリゾートエリアを造成し、世界発信していくと共に
地域の子供たちの可能性を広げるための活動をしていきます。

未来の子どもや孫たちも、この島を「いいね」と思えるように。

海や山など自然があふれたこの島を、新鮮な魚や野菜が食べられるこの島を、
人間味があふれ安心して暮らせるこの島を、自信を持って誇れるように。

私たちはこれからもずっと挑戦を忘れずに
瀬戸内・小豆島を引っ張っていくリーディングカンパニーであり続けます。



働く先輩たちにインタビュー！

最年少の女性管理職として、
周りのお手本に
なっていたらいいと思う。

小豆島高校出身

葛西 沙紀

営業予約部 | フロント課長
1981年小豆島生まれ。30代

「2児の母、フルタイム勤務。 一度転職して戻ってきた出戻り組」

入社した21歳の頃は、結婚して出産したらすぐ辞めるつもり
だった。実は入社3年後に転職して別の仕事をしたことがある
が、うまくいかず戻ってきた出戻り組だ。結局ここで働く人が
良かったのだと言う。26歳で結婚、その後2度の出産。行事
があつたり、子どもが体調を崩したりして突発的なことも含め
穴をあける事もあるが快く帰してもらえ。ホテル業だから夜の
勤務体系もあるが、会社からの配慮でずっと外してもらって
いる。入社時よりも現在は社員比率が増え、とても働きやすい
環境になった。



「最年少の女性管理職として、 周りのお手本になっていたらいいと思う」

2人目の出産後、新しく課長職のポストができた時に昇進した。
子どもがいて、朝来て夕方には帰るし、昇進を告げられた
ときには自信がなくて「無理です」と答えた。結局説得されて
課長職に就いたが、やっているうちに「できるかな？」と思い
始めた。接客が好きで、周りが状況を理解してくれて、現場
の仕事で、特に困った事はなかった。女性上司だからこそ
メンバーも相談しやすいかもしれない。ただ、ベイリゾート
ホテルで初めてのワーキングマザー管理職。周囲が戸惑って
いると感じる事もあり、配慮でなく遠慮されていると思う
時もある。言ってくれたら、できる限りの事はしていきたい。
そして、自分が周りのお手本になっていたらいいと思う。

「いま仕事は生活の一部。 でも無理をしないようにしたい」

長く働いていると仕事は生活の一部になり、この会社以外
考えられなくなった。夫は仕事で家を空ける事が多く、仕事の
他に育児と家事をこなす毎日。仕事はとても好き。でも体調
を崩した事もある。その時も会社は優しく2週間休ませて
もらった。身体は1つしかないの、無理をしないように
しようと思った。母親になってみて、お子様連れのお客様に
話しかけやすくなった。自分自身がよく話しかけるからか、
部署にワーキングマザーが多いからか、みんなお子様連れ
のお客様に積極的に話しかける。「人にやさしく笑顔で」が
モットー。明るく、プラス思考の人と一緒に働きたいと思う。





高知県出身

元吉 彩花 料飲営業部 | コンシェルジュ
1992年高知県生まれ。20代

「挑戦させてくれる・育ててくれる風土」

高校卒業後、四国内で就職先を探していた。もともと人見知りで、たくさんの人と関わりたいと思いホテルを志望。現在は一番年下ながらレストランの責任者を任されている。もちろんわからない事も多く、周りによく相談する。自信があったわけではない。でも「任せて大丈夫じゃないか」と言ってもらえた。若い人に仕事を振って育ててくれる風土で、挑戦させてもらっている。失敗したときや悩んでいるときには、助けてくれる仲間や先輩がいる。和気あいあいとした楽しい雰囲気も魅力の一つだ。

「お客様に喜んでもらえる事がやりがい」

事前に誕生日や結婚記念日だとわかっていると、サプライズでデザートプレートをお渡ししたりする。喜んでくださりこちらも嬉しくなる。外国のお客様向けにドリンクメニューを作成したときは、お客様だけでなく社内でも感謝された。仕事中はお客様と接する時間が長いので、毎日たくさんのお客様の笑顔を見る事ができる。「ありがとう」の一言がやりがい。人と関わるのが好きな人や、自分から進んでいるいろいろな事に挑戦したいと思う気持ちのある人と、一緒に働きたいと思う。



「今後もできるなら挑戦してみたい」

昨年、結婚した。ホテル内にもお子さんがいるママ社員は沢山いるが、全員小豆島の人。近くに親戚もいないので、もし将来子どもができたなら、このままでは仕事を続けられないかなとも思う。現在の部署は夜の勤務がある。でももし臨機応変に、勤務体系を変えたり、部署を異動させてもらえたりしたら、できるなら挑戦してみたいとも思う。小豆島は住みやすくていい人が多い。海や山がある。暮らすには最高の場所だ。



土庄高校出身

小野 正憲 営業予約部 | 予約課長
1977年小豆島生まれ。30代

「熊本の被災地からのお客様の心からの笑顔」

熊本で余震が続く中、一度はキャンセルされながらも、「やはり行きたい」とお越しくくださったお客様。「小豆島に来て本当に良かった。心が楽になった。良くしていただいてありがとう」と心からの笑顔が忘れられない。ホテル業の本質は、お客様の笑顔に一番近い場所で働ける事と、お客様の喜びに一番近い場所で接する事ができる事。人と接する中で「出会えて良かった」と思ってもらえる事が人生のゴール。不器用で人に頼れない性格が、16年働いてきてようやく接客が楽しいと思えるようになってきた。

「うちの家すごいやろ」と同じレベルで「小豆島えとこやろ」と言える

小豆島生まれ。海も山も美味しい食べ物もあり、人もよく、恵まれた土地だと感じる。お越しいただくだけで喜んでもらえ、紹介するだけで商いが成り立つのは本当にすごいこと。地元の祭り、農村歌舞伎、釣りなど、小豆島の自然や行事には沢山触れてきた。その中で現在の島は比較的好い状態だと思う。でもこれから先、確実に人口が減っていく。現状を保つだけでも、かなりの努力が必要。だからこそ、観光や宿泊業で1人でも多くのお客様に足を運んでいただき、いい所と思ってもらいたい。そのために、自分ができる事をしていきたい。

「家族で朝ごはんを食べ、子どもを送り、家事をして出勤する毎日」

7時起床。家族で朝食を食べ、子どもを幼稚園のバス停まで送っていく。掃除や洗濯などを行い、2度寝をし、昼食を食べ、時に海で釣りをしたあとに出勤する。今は14時～23時までの勤務。帰ったら子どもは寝ているから、朝だけでも時間を作るようにしている。16年間に何度か辞めようと思う事もあったが、上司が怒ってくれ、目をかけてくれた。よく人生の中のそれだけ時間を、自分に使ってくれたと思う。前向きに素直に物事を考えられる人、感謝できる人と一緒に働きたいと思うし、もっと自分もそうならなければならないと思っている。



岡山県出身

難波 久美子 営業予約部 | フロント
1992年岡山県生まれ。20代

「ただただ英語が好き。独学で英語を学んできた異色の管理栄養士」

高1でオーストラリアに1ヶ月留学後、英会話スクールに通いながら独学で学んできた。飲食店には1人で入れないけれど、海外になら1人で行ける。わからない単語を書き留めて調べたり、洋画や洋楽を見聞きして勉強したり、ホームステイ先に遊びに行ったりする。大学では管理栄養士の資格を取得した。その道で働こうとも思ったが、大好きな海外のリゾート地のような場所で働きたいと思い、小豆島にやってきた。



「リゾート地の時間を忘れられる感じが好き」

岡山出身で近のの来た事がなかった小豆島。一度来たら気に入って、客のふりをして小豆島国際ホテルでトイレを借りた。ロビーから見た瀬戸内海の景色がまさに自分が探していた場所だった。もとはコンシェルジュを希望していたが、配属先はフロント。先輩から「この時間だけ演じる」とアドバイスを受け、置かれた場所で楽しもうと思うようになった。会社の人とは、休日に遊びに行ったりと仲が良い。そこから色々な事が広がった。

「自分次第でお客様が変わる。得意の英語を活かして奮闘する日々」

海外のお客様はほぼ毎日いらっしゃるの、英語を使う機会も多い。チェックインやアウトの時、観光地の場所などをご案内する。先日、オーストラリア・ニュージーランド・カナダから来た4人組に、海外のオススメスポットを聞き盛り上がった。せっかく小豆島にお越しいただいたのだから、楽しい時間を過ごしてほしい。一緒に働きたいと思うのは、諦めない意思を持った人。それから継続できる人、プラス思考の人。今後も英語をもっと勉強して活かせるように頑張りたいと思っている。



小豆島高校出身

中橋 三希 営業予約部 | フロント課長
1972年小豆島生まれ。40代

「寿退社が主流の時代。結婚しても母になっても、好きな仕事で続けたかった」

短大卒業後、新卒入社。当時は「寿退社」が主流。2～3年の間に同世代の女性は辞めていったが、自分はお客様との時間を過ごす接客業が好きだった。仕事を続けたい想いと、夫の理解・応援があり、結婚・出産後も仕事を続けた。第1子の出産時、第2子を授かった時は退職を考えた事もあったが、子どもの急な発熱や学校行事への配慮を職場がしてくれた事から続ける事ができた。

「何事もポジティブシンキング。お客様の喜ぶ顔が見たい」

第2子出産から復帰後、主任を4～5年経て課長になって5年。当時、既に女性管理職があり、管理職登用される事に抵抗はなかった。フロントはカッコよく華やかに見えるが、実は雑用も多い。ラベル作りや掃除をしたり。お客様から見たらその小さな事が嬉しい事。ポジティブに考えれば、仕事も楽しくできる。お客様の喜ぶ顔が見たいから、何とか役に立ちたい。そして、この前まで学生だった新社会人が、しっかりしていくのを見るのが嬉しいと思う。

「忙しかった時期は、正直記憶がない。でも今は、子どもが支え」

現在、上の子どもが高校生。大きくなって手がかからなくなり、昔のことを懐かしく思う。小学校低学年くらいまでの子育てが大変な時期は、毎日両手に2人抱えて保育園からスーパーまで走って、座る間もなく食事の準備をして、記憶は飛んでいるが、とても楽しかった。今年、闘病生活の末、夫が亡くなった。介護休暇を取得し、最後まで一緒にいる事ができた。夫がしてくれていた子ども会や地区の行事、土日の出勤など、不安もある。でも、子どもたちに手がかからなくなると、今度は子どもが支えになった。会社が女性も働きやすい組織を目指すようになって、あの時辞めなくてよかった、続けてきてよかったと実感する。だから、次の人たちにつないで行けたらと思う。





奈良県出身

福井 美耶

料飲部 | コンシェルジュ
1988年奈良県生まれ。20代

「3日間の孫でいてくれてありがとう」

食事処の接客をしていると、3連泊した90歳くらいの老夫婦からこんな言葉をかけられた。ちょうど祖母を亡くした時期で、お互い号泣した。後日一緒に撮った写真と手紙が届いた。素直に嬉しかった。お客様は自分のことをよく見てくれていると思う。接客業なので笑顔だけは持つておく。「笑顔が素敵だね」「よく働くね」「ありがとうね」こんな言葉をかけられる時が一番のやりがいだ。

「東京でAD・テーマパークで接客・イベントスタッフ等を経て小豆島へ」

大阪の専門学校を卒業後、上京し様々な職種を経験する。その後、派遣スタッフとして小豆島国際ホテルで働いた。契約満了とともに東京に戻った。東京は好きだった。でも何となく変化がない毎日で、環境を変えてみようと思った。小豆島に特にこだわりがあったわけではない。でも2~3年前の夏に小豆島で働いたとき楽しくて友人も多くできた。だからまた小豆島に戻ってきた。

「仕事が好きないと生活も楽しくない」

行動力があり適応するのも早い。その根本にあるのは、後悔する前にやる。とにかくしたいことはするという想いだ。仕事=生活。だから笑顔でとことん楽しむ・愚痴らないようにする。ホテルの仕事は、連携を取らなければならない。1つの部門でトラブルがあると、それがホテル全体の評価につながる。だからこそ、責任感を持って仕事を真面目にする。子どもの頃からグループが好きでなかった。職場でも仲間だとは思っているが、群がりに入ろうとは思わない。それが今も時に誤解される事もある。でも自分の軸をぶらそうとは思わない。それが信念だから。



トルコ出身

Merut DOGAN

ドーン・メスッド
営業予約部 | フロント
1981年トルコ生まれ。30代

「トルコ出身、世界各国の5つ星ホテルで働いてきた実力派」

日本人の女性と結婚し来日。16歳でホテルの専門学校に入学。卒業後、大学で勉強しながら各国のインターンシップでイギリス式・フランス式・アメリカ式のホテルを専門的に学び、アメリカ・イスラエル・トルコ・東京の5つ星ホテルで働いてきた。しかし東京の有名ホテルでの仕事は想像したものと違っていた。日本特有の出世競争や上下関係、建前と本音の文化をまるで軍隊だと感じた。国際的なホテルの勉強をしてきたのに、とてもショックだった。

「東京での子育てに悩み、移住を考えた」

東京での子育てに疑問を感じたのは子どもが生まれる病院選びだ。東京都大田区に住みながらどこも満床で出産予約ができず、結局子どもが生まれたのは、はるか離れた神奈川県横浜市の病院であった。また、保育園にも入れず、6か月間待機児童となり、妻も仕事ができなくなった。そのような状況で区役所を訪ねたところ、「祖父母に頼りなさい」と言われた。高い税金を払っているのに、その対応に疑問を感じた。東京は便利で仕事もある。でも子育てに優しくない。そんな時、たまたま移住の宣伝を見かけた。



「小豆島はセカンドチャンスの島」

小豆島は、自分の生まれ育った故郷トルコ・イズミールに似ていた。観光地だが自然豊か、気候も穏やか、人間が温かい。移住窓口で相談したところ、小豆島国際ホテルを紹介された。面接のつもりで品川駅の居酒屋に行くと、専務がいて一緒に3~4時間飲んだ。感じていた日本での仕事への悩みを話すと「知識と能力があれば正当に評価される。全力で頑張っていたら上になっていける。小豆島を世界ブランドにする。一緒に働こう」と言ってもらえた。気持ちや考え方が建設的なこの職場では、ストレスなくモチベーション高く働ける。未来を見て仲間が力を合わせて頑張っている。困ったら助けしてくれる。小豆島での暮らしは、人がみんな親切。小豆島を選んだ事とても満足している。



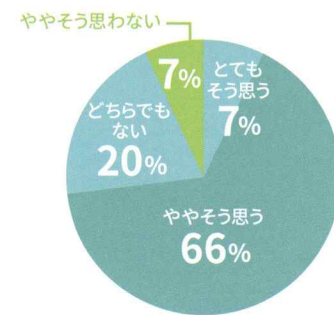
実際、どう感じてる?

社員に“本音”緊急アンケート!

回答者数/45名 時期/平成28年6月

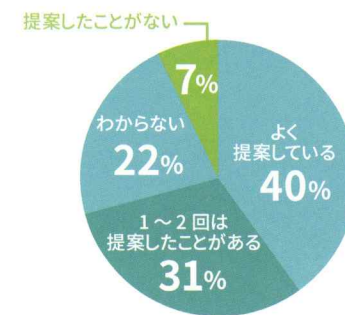


Q あなたの職場は多様な人材が活躍していますか?



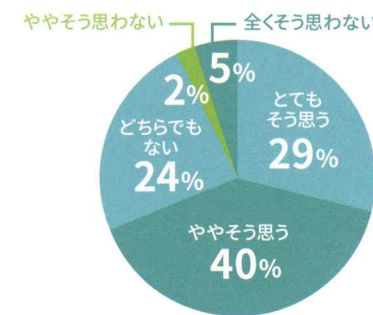
7割以上の社員が、多様な人材が活躍していると回答

Q 気付いたことを改善しようと提案したことはありますか?



7割以上の社員が、改善提案をしたことがあると回答

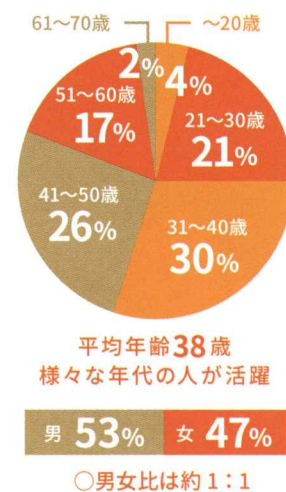
Q 将来的に社内でキャリアアップをしていきたいですか?



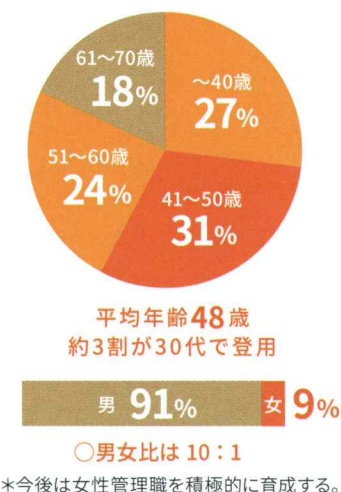
7割の社員が、社内でキャリアアップしていきたいと回答

“うちのホテル”ってこんなところ!

Q 一般社員の年齢は? 男女比は?



Q 幹部管理職社員の年齢は? 男女比は?



Q 月の平均残業時間は?
※平成27年6月~28年5月

一般社員 約 41.5 時間
幹部社員 約 74.5 時間

Q 有給休暇の取得は?
※平成27年6月~28年5月

平均 4.2 日

Q ワーキングマザーの割合は?

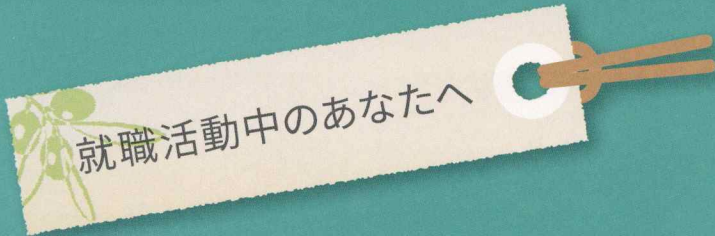
全女性社員28名中... 8 名

多様な人材が活躍できるための制度や取り組み

- 【産前産後休暇・育児休業制度】...取得・復帰率100%
- 【パパ休暇】...出産時に短期休暇を取得可能。
- 【介護休職制度】...介護中に休職することが可能。取得実績あり。
- 【限定社員制度】...子育て・介護などの社員は、職種・時間・曜日を選らび働くことが可能。


『労働生産性向上のモデル旅館』に選出

- 大型ホテル・旅館の部で全国2件のうちの1件に選出される。専門家により視察の後、更なる生産性向上を目指し取り組んでいる。
- 『瀬戸内・小豆島未来塾』を社内教育の一環として開催 毎月勉強会を開き、小豆島の未来について考える会。
- 『よそ者若者ばか者会』を地域貢献の一環として発足 月1回開催。小豆島好きが集まり、地域・人づくりに励む会。




就職活動中のあなたへ

“ 代表メッセージ ”




瀬戸内・小豆島の未来が希望に満ち溢れているように、
未来の子どもたちがいい島だと思えるように、
現在、私たちは、変革の真ただ中です。

今の延長線上に未来はない。
人の成長なくして会社の成長なし。
そのような想いを持って、
多様な人材が活躍できる組織を目指し、
働き方を見直す「組織改革」に取り組んでいます。
また、一番大切なのは「人財」であると考え、
人材育成・教育に力を入れています。



変わろうとしている組織なので、小さな葛藤は沢山あります。
だからこそ、出る杭は伸ばす。人を活かす。
一緒に挑戦してくれる仲間を待っています。



SHODOSHIMA